

海外の子育て支援事情に学ぶ難民・移民家族への子育て支援

An Integrated Approach to Disadvantaged Families in Belgium

ヘレン・グッドゲブール*

(麓 浩子・訳)

GOETGHEBUER, Heleen

(FUMOTO, Hiroko (Trans.))

目次

- I. ベルギーについて
- II. ベルギーにおける貧困と移民について
- III. De Sloep と Inloopteam について
- IV. De Sloep の発足と現在
- V. 事例
- VI. 質疑応答

* De Sloep ソーシャルワーカー (ベルギー)

海外の子育て支援事情に学ぶ難民・移民家族への子育て支援

日時：2018 年 11 月 10 日 (土) 14:00 ~ 16:00

講師：Heleen Goetghebuer 氏 (De Sloep ソーシャルワーカー)¹

通訳：麓 浩子氏

I. ベルギーについて

お話をする前に背景としてベルギーの地図をお見せします (図 1)。ベルギーは三つの地域に分かれています。

フランダース地方は北部に位置し、オランダ語を話す地域です。南のワロン地方ではフランス語を話します。中央に位置するブリュッセルは、フランス語とオランダ語の両方を話します。De Sloep はフランダース地方のアントワープ市にあります。アントワープ市の人口は 26 万人で、とても移民の多い地域です。

Poverty and immigration in Belgium

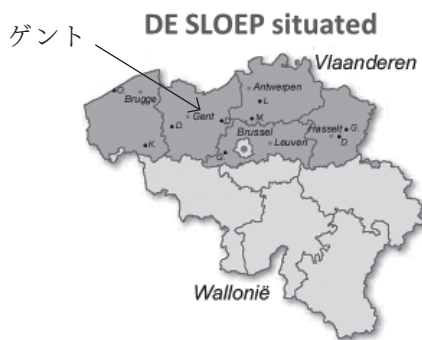


図 1. ベルギーの地図

II. ベルギーにおける貧困と移民について

まず、貧困についてお話します。東フランダース地域の貧困率は 11.17%、アントワープ市全

¹ 「De Sloep」はベルギーのフランダース地域にある家庭支援センターです。Heleen Goetghebuer 氏はそこでソーシャルワーカーとして移民や難民など様々な背景を持つ家庭への支援をされています。

体では 22.7%です。これらの地域と比較すると、De Sloep のあるアントワープ市の貧困率は 47.5%と高く、この地域では二人に一人の子どもたちが貧困家庭で育っているということになります。ベルギーの政府機関である Child & Family によると、貧困は、社会的価値の高いもの、例えば、教育、就労、住宅へのアクセスが非常に限られている状態を言います。一時的な事ではなく、物質的にも精神的にも様々な側面において継続的に、比較的長い間続く状態です。

貧困と認定されるには、幾つかの基準があります。その一つが家庭の月収で、これが不安定であったり可処分所得が生活水準より下回っていたり、失業保険などをもらっているといった場合です。二つ目は教育。ひとり親、または、片方の親が高校の卒業証書を持っていない場合や、特殊教育しか受けていない場合、また、読み書きができない親がいる場合です。三つ目は親の就労状況で、親が不安定な職業についている場合などです。例えば、臨時雇いや、ブラックワークについていたり、両親がともに失業中、または一人が高齢であったり、保護作業所で働いていたりする場合です。四つ目は、子どもが発達を促進させるような刺激の少ない環境（訳者注；大人の言語的刺激や運動等の感覚的刺激が少ない）で育っている場合。家庭が子どもに与える刺激のレベルは、観察や親との話し合いで判断します。プリスクールに通っているか、子どもの世話で困難なことはないかなどを話し合います。五つ目は、不衛生、不健康、危険な住環境にある場合です。住居スペースが狭すぎたり、必要な設備が家や近所になかったりする状況も含みます。また、ホームレスの家庭や、住むところがなくてファミリーケアセンターや、インテグラル・ファミリーセンター、難民シェルターに住んでいる場合もこれに当たります。六つ目は健康に関することです。家族の一人（親、子ども、一緒に住んでいるきょうだい親戚など）が、健康を害していたり、持病があったり、障害をもっていたりする場合、また、公共医療へのアクセスが難しい状況にあったりする場合があります。以上の六つの項目の内、三つ当てはまると剥奪状況にあると判断されます。

次に移民についてお話しします。2017 年には、2 万人近い難民申請者がいました。その内、14,000 人近くが難民として認定されました。どんな場合に認定されるかと言いますと、やむを得ず、自国を脱出しなければならなかった場合、起訴される恐れのある場合、自国で保護を受けられない場合、人種・宗教・国籍・特定の社会集団の構成員であるため、または、政治的意見を理由として迫害を受ける恐れがあるということで、保護を必要とする場合、個人的に迫害を受けていることが証明された場合などで、LGBT や女性が含まれることもあります。

個人的に迫害を受けていて難民と認定された人たちは、国に送り返されることはありません。また、戦争をしている国、例えば、シリア、アフガニスタン、イラクなどから来ている人たちは、補完的保護を受け、戦争難民として認定されます。経済的な理由から難民

を申請する人もたくさんいます。主にガーナ人ですが、この人たちが滞在許可証や労働許可証などの正式な書類を取得して、法的に滞在することは難しいです。ガーナは国内戦をしている訳でも、危険にさらされている訳でもなく、ベルギーに来たらもっと良い暮らしができるのではないかと考えてやってくるので、認められない場合が多いです。このようにひとくくりに難民と言っても、難民申請者は多様です。

認定された難民は彼らの国に送り返されることはなく、ベルギーに永久的に住むことができます。就労の権利と医療保険を受け取る権利も与えられます。一時的に自国に帰っても、またベルギーに戻ってこられるような特別な滞在許可証や、出生証明書なども得ることができます。リュニオン (reunion) という制度があり、自分の配偶者や未成年の子どもたちが自国、または他の国にいて離れ離れになっている場合も呼び寄せることができます。

戦争難民の人たちは、ベルギーにいられるのは一時的な場合もあります。また、一年に一度、自国の状況を見て、その状況が良くなった場合は送り返されることもあります。逆に自国の状況に永久的な改善が認められない場合は、永住権を取得できます。ベルギーで働く場合は特別な許可を得る必要がありますが、医療保険は自動的に取得できます。彼らは、滞在許可などの正式な許可証は5年たたないと受け取れません。でも、正式にベルギーに滞在する権利がまだない人も、緊急時には医療を受けることができます。その人たちはメディカルカード（医療カード）を申請しなければなりません、それがあれば病院や歯医者に行ったり、検査や診断、薬の処方を受けたりすることができます。不法滞在者の子どもたちも教育を受ける権利があって、教育を無償で受けることができます。

III. De Sloep と Inloopteam について

1. De Sloep の利用者と組織構成

De Sloep の利用者は大きく3つのグループに分けられます。一つはルーマニア、スロバキア、ブルガリアからのEU圏内の人たちです。もう一つは、EU圏外からの移民で、60%がこれにあたります。主にトルコ人ですが、少数の、シリア人、ソマリア人、パレスチナ人などのアラブ系の人たちもいます。アフガニスタンやイラクからの人たちも大勢います。残りの一つは不法滞在者で、アフリカからの経済難民が多いです。主にアフリカ北部やガーナからの人たちです。家族形態はとても多様で、二人親やひとり親、国の状況によって一時的に父親、母親、子どもたちが離れて暮らしている人たちなどがいます。家族といっても、その背景や状況は多様です。

De Sloep では、家族の特性をとても大切にしています。利用者の言語や習慣などは様々なので、家族の多様性を大切に、尊重しています。その多様性に対してオープンに忍耐強く接すること、どんな文化背景の人も、一人一人を尊重することを重視しています。利

利用者の90%は移住経験者で、ベルギー人はとても少ないです。このように、De Sloepの利用者には多様性がありますが、一つ共通していることは、皆、“親”であるということです。私たちが対象にしているのは0歳から6歳、または妊婦さんのいる家庭です。ほとんどの家庭が複合的な問題を抱えていて、難しい状況や剥奪状態にあたり、不利な状況にあたりします。また、難民や不法滞在者もいて、多様性に富んでいますが、皆が心配していることは、自分の子どもの健康と教育のことです。私たちは、2017年には1000件以上の家庭を支援しました。50以上の国籍の人たちがDe Sloepを利用しました。また、個別支援を790家族に対して行い、De Sloepが提供するグループセッションに参加したのは420家族にのぼります。

De Sloepには三つのセクションがあります(図2)。一つはコンサルテーションオフィスと出産前のサポートサービスです。もう一つは、インループチームといって、そこで私は働いています。三つ目が健康と解放プロジェクトです。

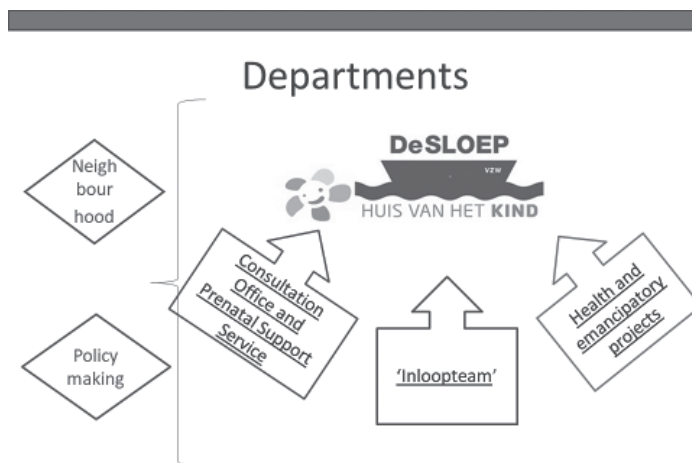


図2. De Sloep の構成

コンサルテーションオフィスは0歳から3歳児がいる親対象で、ここでは、Child & Familyの政府機関から来ている医師や保健師、看護師に色々な相談ができます。また、健康や栄養、子どもの安全についての助言も受けられます。出産前サービスでは、生活困難などの特別な支援ニーズをもった妊婦さんとそのパートナー、夫を対象に支援しています。月に二回、個人的に保健師さんに会うことができ、そこで予防についても学べます。妊婦でも社会にある医療機関へのアクセスが難しい人たちがDe Sloepには来ます。ここでは、例えば、避妊について質問することもできたり、そこから病院や産婦人科に紹介されたりすることもあります。

私の働いているインループチームでは、いくつか大切にしていることがあります。一つ

は提供するサービスが統合的であることです。ここでは家族の特定の問題に焦点を当てるのではなく、家族の全体像をつかむことを大切にしています。また、家族の特性にあった解決法を様々な角度から考えますが、時にはただ聞き役になることもあります。なるべく敷居を低くして誰でも気軽に来られるようにしています。アポイント（予約）もとらないで9時から17時の施設が開いている時はいつでも来てもらえるようにしています。オランダ語が分からない家族も多いので、グループセッションでは言葉を簡単にしたり、絵や図を使って見てわかる資料を多く使うようにしています。ほとんどの家庭にとって、私たちがベルギー社会の支援のシステムとの最初の接点になるので、もし、私たちのところで支援ができなければ、他の施設・機関を紹介したりします。生活に関するどんなことでも質問に答えられるようにしています。私たちはオープンハウスとして皆が来やすいように心がけています。子どもたちの教育、養育、発達、健康に関するあらゆる支援をしているのです。

2. Inloopteam の活動

インループではオープンオフィス、家族支援、親のグループ等、色々なプロジェクトを提供しています（図3）。

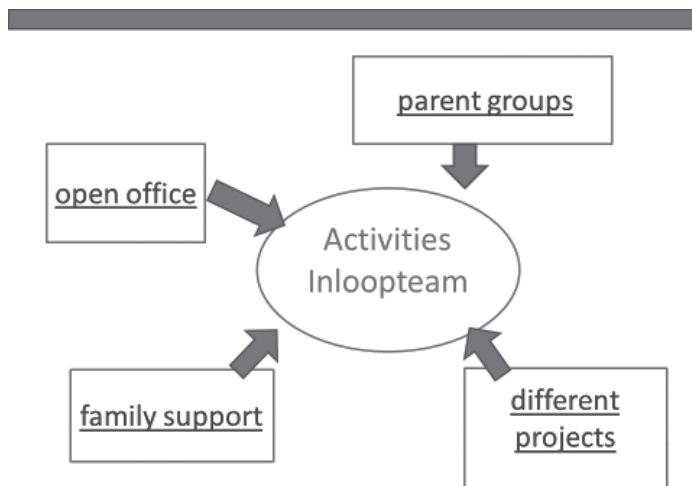


図3. Inloopteam の活動

(1) Open office

オープンオフィスは、皆が気軽に来て、どんな質問でもできる場です。よくある質問には、滞在許可証や様々な正式書類について、子どもをどこの学校に入れたらいいか、また、職探しについてなどがあります。家族によっては複合的な問題があるので、一般の支援だけでは足りないこともあります。その場合は、サポートワーカーが一家族を継続的に

集中的にフォローするようになっていきます。利用者とまず初めにしなくてはならないことは、言葉が通じない場合もあるので、どんな問題を抱えているのかを明確にすることです。分からないことがある場合は、電話を通して通訳を依頼してコミュニケーションをとるようにしています。複合的な問題がある場合は、自分達だけでは対応しきれないこともあるので、例えば、社会福祉であるとか医療関係の他の施設と協力したり、また紹介あったりしながら、皆で家族を支えていくようにしています。その場合、他の機関とコミュニケーションをとることがとても大切で、家族をたらいまわしするのではなく、きちんとフォローアップするようになっています。

(2) Parent groups

ペアレントグループには二つありますが、その一つはプロセスグループです。プロセスグループは、長期的なもので、二週間に一回、ニーズに対応できるように行っています。参加者がその日のテーマを提案することが多く、オランダ語で進行しています。もう一つは、短期的グループです。こちらは特定のグループに向けて、あるテーマを持って開催する8回の講習会です。主にオランダ語で話し合いますが、多言語への通訳は、プロカボランティアに依頼します。プロセスグループは主に経験をシェアすることに重きを置いています。テーマ別グループの主な目的は、情報提供と新しいスキルの習得です。親がグループで活動することの長所は、親同士のソーシャルネットワークが広がっていくことです。そうすることで親は、自分が抱えている問題に対して、他の人も同じような問題を抱えていることが分かるようになります。私たちが力を入れていることは、親のエンパワーメントです。私たちは、各家庭が自分たちの子どもを教育する能力も経験もあるということを信じて活動しています。そのために、家族の欠点ではなく、家族の長所に焦点を当てています。家庭のレジリエンスを高めることにも焦点を当てていて、長期的には私たちの支援を必要としなくなることを目標としています。家族のモチベーションや自信を高めるとともに、家族自身が自分たちの状況は変えられるということが信じられるように、現実的な将来を見据えながら、各家庭が自ら動けるようになるように支援をしています。

様々なグループ活動もあります。まず母親グループですが、色々な国の人たちが二週間に一度集まっています。主に健康と教育に関するテーマに焦点を当て、情報提供も沢山しますが、親同士が経験をシェアすることに重きをおいています。父親にも育児に関して社会の中で役割を持ってほしいので父親グループもあります。父親は働いている人が多いので、皆が参加できるように月に一度、夜に集まるようにしています。このグループでは、テーマに基づいて情報提供やディベートなどを行っています。また、ベビートークといって、妊婦さんや9か月までの赤ちゃんのいる母親の集まりもあります。これは、公共保健センターや妊産婦ケアのエキスパートセンターと協力して実施しています。ベビー

トークも8回の講習会で赤ちゃんに関するトピックスを取り上げています。病気や健康、栄養、母乳、授乳についてなど、色々なことを取り上げています。使用言語は主にオランダ語ですが、ここでも必要に応じて通訳をボランティアやプロに依頼しています。もう一つは「就学前教育・プリスクール」に行く準備をするプログラムです。ベルギーでは2歳半からプリスクールに通います。でも6歳まで家庭にいる子どもたちも大勢いるので、プリスクールに通うことの大切さを知らせています。個別にお母さん達に会った時にもそういう話をしたり、グループセッションで幼児教育の大切さを話したりしています。入園手続きは主にオンラインでするので、その大切さを分かってもらえるようにキャンペーンもしています。インターネットにアクセスできない家庭もたくさんあるので、入園手続きの方法などの情報を提供するだけでなく、一緒にインターネットを使って手続きの手助けをしたりしています。まだ入園手続きを行っていない家族を見つけたら手続きができるように手助けをします。その他にも色々な講習会を実施しています。例えば、喫煙に関することや、宿題をどのようにして手伝えばいいか、健康的なお弁当をどうやって作ったらいいか、学校に行きたくない子どもが訴えるといった朝のストレスをどのように緩和したらいいかなど、様々なテーマで話をします。また、ベルギーの学校についての情報提供もします。

遊びと集いのグループは、ゲント市内3か所で曜日を違えて活動しています。ここは親同士の交流を促進する場でもあり、親子、または他の子どもと遊べる場でもあります。多くの家庭は住環境が狭いので、親子と一緒に遊べるように、挑戦的で刺激的な環境を作っています。ここでは、親同士が知り合いになったり、子ども同士と一緒に遊べるようになったり、挑戦的な玩具で遊んだりすることができます。ここに来る母親は社会的ネットワークがほとんどない人が多いので、ここへ来ることで、ネットワークを広げ、お互いに学び合うことができます。子どもたちは、他の子どもと遊べるようになります。これらは大切なことです。子どもたちは日中母親とだけ遊ぶことが多いので、ここへきて他の子どもと遊ぶことで、プリスクールに通う準備になるのです。

(3) Different projects

色々なプロジェクトも実施しています。一つ目はジュマ(Djuma)。これはアラビア語やトルコ語で金曜日という意味で、ここでは、金曜日に行うオランダ語クラスのことをジュマと呼んでいます。これは、不法滞在者の人も含めて、地域の全ての親を対象に、誰でも気軽に来られるクラスです。ここはオープンスペースで自分たちがイニシアチブを取りながら参加できる、とにかくリラックスした心地よい場だと思います。オランダ語はボランティアの人が教えてくれています。全くの初心者からある程度会話ができる人までの3グループに分かれています。本当に、フレキシブルなシステムで運営しています。親がオ

ランダ語を習っている間に子どもたちの託児も行っています。不法滞在している人たちは、ベルギーの各市で行っている一般の語学教室に通うことができないので、ここに来ることによって語学が習得できます。語学を身につけるということは社会に溶け込むのに一番大切な事なので、不法に滞在している人たちにも機会を与えて、社会に溶け込めるようにしています。

母親対象に手工芸や料理教室なども行っています。また、ディナモ (Dynamo) という健康的なライフスタイルに焦点化したクラスもあります。ここは女性だけのスポーツクラスで色々なスポーツをやっています。スポーツクラブに参加した後に、健康的な食事について話し合ったりもしています。また、ここを通して地域のスポーツなどにも参加できるような流れを作っています。スポーツクラスは水曜日の午後に行っているのですが、ベルギーの学校は水曜日の午後は休みなので、全ての女性が参加できるように、ボランティアによる託児を提供しています。その他にも、例えば、デンタルケアやヘルスプロモーションなども行っています。自転車に乗れない人に自転車の乗り方を教えるサイクリング教室もあります。市のスポーツ課と共催しているので、市が自転車を提供しています。自転車に乗れるようになることによって行動範囲が広がり、仕事にも行きやすくなるし、広範囲で仕事を探せるようにもなります。

就労に関するプロジェクトが二つあります。ヨーロッパファンドで支援されているプロジェクトです。一つは A-TIEM と言って、ヨーロッパ圏内の移民、主にブルガリア、ルーマニア、スロバキアの人たちが対象のものです。職員が集中的にその人たちをフォローします。とても不安定な生活状況の人たちなので職探しにはとても苦労しています。もう一つは Go-2-Work と言って、色々な国籍の人たちが参加できるようなもので、2年間、集中的に De Sloep の職員がフォローします。De Sloep に来て主に就労に関する質問をされた方には、このプロジェクトへの参加を促しています。

Instapwonen は、Housing first の方針に基づいたもので、対象者は、ヨーロッパ圏内の移民、主にブルガリア、ルーマニア、スロバキアの人たちです。この人たちは、住処を探すのにとても苦労しています。アントワープ市の住宅事情はとても厳しくて、家自体が少ないのと家賃の高騰によって、家探しは大変なのです。移民の人たちは一番に被害を被ってしまうので、支援しています。例えばこのプロジェクトでは、こういった家族が、少数で18ヶ月までではあるけれど、仮の住まいを市内で安い家賃で借りられるようアントワープ市を通して手配しています。住むところが見つかるると他の困っていることに集中できるようになります。仕事探しや教育などにも目が向くようになります。De Sloep はこのプロジェクトのパートナーなので、18ヶ月の間、これらの家庭をフォローします。

もう一つは Housing Project です。オープンオフィスに質問に来る人の話を聞いていると、家探しに困難を感じている人が多くいることがわかります。高い家賃や、手入れの行

き届いていない借家も多く、この場合、脆弱や貧困家庭が一番大きな影響を受けてしまうので、このプロジェクトを立ち上げました。一週間に一度、3台のコンピューターを使って、家探しや、家の下見の予約をしたりするなどの援助をしています。

(4) Family support

物質的な支援の一つに、オムツ・プロジェクトがあります。オムツはベルギーではとても高いものです。オムツが欲しいという沢山の要望に応じて、年間、約15～20家庭にオムツを提供しています。皆に提供するのは無理なので、どの家庭がオムツを受け取れるかを決めるのに、チームで話し合い、社会調査を行います。収入や家賃、滞在ステータスなどを確認してどの家庭にオムツを提供できるかを決めます。提供できると決めた家庭は、キャンセル待ちのリストにのせて、空きが出るまで待ってもらいます。オムツを受け取れるのは2歳半までです。6ヶ月までの赤ちゃんには粉ミルクも提供しています。私たちはなるべく赤ちゃんを母乳で育てるように推進しているのですが、希望者が大勢います。粉ミルクを受け取るには政府機関のChild & Familyの保健師からの推薦が必要となります。4歳児までは洋服の支援もしています。洋服は地域の人たちからの寄付です。その他、乳母車やベビーカーなどの赤ちゃん用品のお古などの寄付も募り、必要な人たちに配布しています。大人用と子ども用の自転車も集めています。オムツや粉ミルク代は、サービスクラブから集めた資金や個人の寄付で賄っています。サービスクラブとは富裕層がチャリティーコンサートやチャリティーディナーなどをしてお金を集めるというシステムです。

De Sloepは「子どもの家」と言うネットワークの中の一つです。アントワープにある「子どもの家」は30の予防的子育て支援事業から構成されています。パートナー事業は協力しあい、相互に紹介し合う流れを作ったり、セクターの壁を超えて、一緒に地域にある新たなニーズに対応できるように新しいプロジェクトを立ち上げたりしています。フランダース地方の地方自治体の助成金で運営しています。De Sloepは色々なサービスを家庭に提供することができる統合型のサービスなので、家族の一番の利益を考えながら活動することができます。De Sloepは一つ屋根の下で色々なサービスを提供できるので、一つのサービスから他のサービスを家庭に紹介することが容易にできます。また、ここで働くグループワーカーは一つの支援に特化するのではなく、色々な支援ができます。それによってグループワーカーは様々な分野の支援に精通していきますし、また多様な家族と関わることにより自分たちの専門的知識や経験値を広げていくことができます。健康や教育、生活に係わる色々な知識を広げて支援ができるようになります。また、利用者の中には、子どもを連れてくる人、来ない人、ヨーロッパ圏内の難民申請者だったり移民だったり、家族といっても一言では言い表せないくらい多様な人たちがいます。その人たち全

てをターゲットとする中で、父親をターゲットにした支援や、母親をターゲットにした支援など様々な支援をしています。また、必要になったときに新しいサービスを提供できるように私たちはフレキシブルに支援体制を変えられるようにしています。例えば、最近住宅に対する問題がすごく多いので、そういった支援もするようになりました。支援体制も多様で、個別に支援することもあれば、アクティビティを設定することもあり、ただ経験をシェアしたり、情報提供をしたりするだけの時もあります。家族がどのサービスを受けるかは、私たちが一方的に決めるのではなくて、親自身が行きたいものを選んでいきます。どれも義務ではなくて、本人が行きたいものに行けるようにしています。

IV. De Sloep の発足と現在

De Sloep は 1996 年に地域のニーズに基づいて、一人の政治家によって発足しました。この時は、資金ゼロで、コーディネーターが一人という状況でした。それが、2018 年には、グループワーカー 8 人、コーディネーター 1 人、ネットワークサポーター 1 人を含む 11 人のチームメンバーとなり、約 65 人のボランティアも活躍してくれるようになりました。ボランティアの方にはコンサルテーションオフィスで赤ちゃんの身長体重を測ったり、オランダ語を教えたり、親がプロジェクトに参加している間の託児のお手伝いをしてもらったりしています。De Sloep の年間の予算は 40 万ユーロ、約 5130 万円です。この半分は Child & Family を通してフランダース地方自治体から支給されています。このフランダース政府から支給されている資金は先ほどお話しした親子の遊びの集いのグループやコンサルテーションオフィスの活動に充てています。全体の予算の四分の一はアントワープ市、地方自治体から支給されていて、ヘルスプロモーションなどの活動に充てています。一つのプロジェクトに対して資金をもらうので、新しいプロジェクトを企画して、資金援助の申請をしなくてはならないので、それがとても大変ですが、毎年予算をもらうために頑張っています。

V. 事例

最後に De Sloep で支援を受けていた人の、一つのサクセスストーリーをお話しします。2012 年に初めて De Sloep に訪れたマーシーというガーナ人の女性のケースです。彼女は妊婦で産婦人科からの紹介で De Sloep に来ました。その時、彼女はアントワープ市では社会的ネットワークを何一つ持っておらず不法滞在をしていました。初めてフロントオフィスにやってきた時に、De Sloep ではどのような支援をしているのか説明をして、妊婦だったのでベビートークのグループに来るように勧めました。その後は定期的にフロントオフィスに色々な質問をするためにやってくるようになりました。例えば、滞在許可証取得について、チャイルドケアや住宅などに関する質問です。しかしその後ホームレスにな

り、心理的な問題も抱えるようになってしまったのでグループワーカーを一人当てて集中的に支援するような体制を作りました。しばらくすると、マーシーは、以前、ここで運営していた古着ショップに赤ちゃんの洋服を買いに来るようになり、そこで他のガーナ人の女性と知り合って、お母さん同士のネットワークを作っていました。出産後は Child & Family の保健師さんのアドバイスを受けたり、定期的にフォローアップされたり、また、オランダ語クラスやスポーツクラスなどにも参加したりしていました。ホームレスになって赤ちゃんと極貧生活をしている時に、合法的にベルギーに滞在している男性と知り合いました。彼女は、彼と一緒に住むようになり、また妊娠しましたが、家族リユニオン制度によって、彼女はベルギーの滞在許可証をもらうことができました。滞在許可証を得ることができたので、正式な語学学校に通ったり、仕事も探したりすることもできるようになり、今月には結婚まですることになりました。

VI. 質疑応答

Q：ワーカーが色々な支援をしています、どのようにしたら、そのような支援ができるようになるのでしょうか。

A：グループワーカーのバックグラウンドは多様です。例えば、ソーシャルワーク、心理学、言語、アラビア語など色々な事を勉強してきた人が集まっています。そのことがアドバンテージとなっているのだと思います。チームミーティングを毎週やっていますが、バックグラウンドがそれぞれ違うので、着目する点も色々で、経験をシェアしてお互いにアドバイスをしたりすることができます。このようなことによって、多様な支援が出来るようになるのだと思います。

ミーティングで家族の状況等を皆で話し合っ、情報を共有することによって支援方法が分かってくるので、チームのコミュニケーションは大切です。また、年に5回ですが、外部の専門家からのスーパービジョンも受けています。私たちの仕事は精神的にも負担が大きいので自分たちが仕事で困っていることや悩んでいることなどを、相談できる外部の人がいるということは重要です。また、学会や講習会に行ったりする機会もあります。そういうふうに勉強しながら専門性を高めています。後は試行錯誤しながら実践知を深めていっています。年に1、2回、自分たちの実践について評価する機会があります。客観的にどういう事がうまくいったのか、いかなかったのかを皆で内省しながら、自分たちの実践の質向上を目指しています。

Q：行政との連携がうまくいっているように思いますが、どのようにしているのでしょうか。

A：私たちは、Child & Family と同じ建物の中にいるのでコミュニケーションがとりやす

いというのが大きいと思います。

資金は綱渡り状態で、今は Child & Family から補助を受けていますが、来年も補助をもらえるかどうか確定しているわけではありません。アントワープ市はこれまでは社会党（左派）が強かったのですが、この間の選挙では負けてしまって、右傾化してきています。来年は予算が付くか不安です。政治の状況で変わってしまいます。

Q：ベルギーは、移民を受け入れる国民性があるのでしょうか。

A：市によります。アントワープ市は寛容で受け入れていますが、他の市は違います。

でもアントワープ市も、これまでシリア難民を受け入れてきましたが、その数が大変多くなってしまったので、今まで程受け入れに寛容ではなくなってきています。これからベルギーも難民申請者に厳しくなっていくと思います。

Q：地域との住人との関係はどうでしょうか。

A：差別は増えています。寛容性も下がってきて、地元にもともといた人たちが自分たちよりも移民の方が優遇されているのではないかという気持ちが高まってきていて、社会全体がちょっと右傾化してきているように思います。もともとアントワープ市は社会党が強かったのです。まだ細々と頑張っていますし、他の市に比べたらまだまだいい方です。社会的には変化が来ているのですが、まだまだそういうことを支援する人たちは多くいます。政治的な状況がすごく大きく関わってきています。

Q：紹介するときに宗教とか問題になりませんか。

A：アラブ、トルコ、ガーナは、宗教も文化も違うので、同じ言葉を話す人が集まってしまいます。それは安心感があるので仕方ない事だと思います。

Q：個人的な質問ですが、なぜ De Sloep で仕事するようになりましたか。

A：はじめは移民のための仕事をするということを目指にはしていなかったのですが、色々な偶然が重なりました。もともと人の役に立つ仕事がしたいという気持ちは凄く強かったです。子どもも好きだったし、最初は De Sloep にボランティアとして入りました。その頃は、コンピューターを使う仕事をしていました。もっと人と接する仕事がしたいと思っていたところに、De Sloep でたまたま欠員が出たので職員として働くことになったのです。De Sloep の仕事はすごく多様で親とも関わるし子どもとも関わるし、個人支援もするし、グループ支援もするし、毎日刺激的で学ぶことも多いです。楽しいです。